

平成 27 年度 高根沢町中学生海外派遣事業

フィジー共和国派遣 報告書



フィジー共和国（ナンディ、シンガトカ、ラウトカ、マナ島）
平成28年1月17日（日）～22日（金）

高根沢町教育委員会

目次

☀	あいさつ	1～
	・高根沢町中学生海外派遣事業実施委員会委員長	
	・平成27年度高根沢町中学生海外派遣団 団長	
☀	団員及び引率者一覧	3
☀	6日間の足跡	5～
☀	研修の報告	12～
☀	団員と共に	27～

「世界人を目指して」

高根沢町中学生海外派遣事業実施委員会 委員長 小堀 康典
(高根沢町教育委員会教育長)



平成27年度高根沢町中学生海外派遣事業が目的を達成し、無事に全日程を終了できましたことは大変喜ばしいことであります。

この事業は、高根沢町にとりましては7年ぶりに再開されたものであり、過去の経験を活かしながらも、本当に手探りの状態から、しかも準備期間も決して十分とは言えない中でのスタートとなりました。フィジー共和国を訪問国としたため、高根沢町国際交流協会の小林栄治会長様をはじめとして、多くの方々からのご協力を得ながら、本事業の目的でもあります「その国の文化や風習・伝統などを体験して、自国の文化等と比較しながら双方の良さを感じ、今後の生活に活かしていこうとする意欲を高めたり実践力を養ったりする」ことを達成させるためのプログラムづくりに取り組みました。フィジー大使館のイシケリ・マタイトガ駐日全権大使、クレラ・R・サブ二等書記官から、資料提供や貴重なるアドバイス等を頂き、事業内容を充実したものにすることが出来ました。マングローブの植林体験、フィジーの美しい海と島々での自然体験や、珊瑚を守る環境保護プログラムを体験できたことは、団員にとっても大変有意義な活動であったことと思います。こういった活動をとおして、世界人として様々な国々で活躍できる人材が育つことを願っています。また、ビレッジ体験をとおして、フィジーの文化や風習・伝統にふれることで、ふるさと高根沢の素晴らしさに気づき、高根沢町を愛する子どもたちに育って欲しいと願っています。思い出のアルバムにも、民族衣装を身につけて、郷土料理のロボ料理を食べる団員の笑顔があふれています。

成田空港を出発する際には、少し心細く不安げな団員の表情が印象に残っていましたが、帰国して、町民広場の駐車場に降り立った団員ひとりひとりから、真夜中にもかかわらず力強い「ただ今帰りました。」の挨拶を受けた時、この事業の成功を確信しました。この成功には、引率いただきました戸井田和明団長、栗田知之阿久津中学校教諭、林康子北高根沢中学校養護教諭、カラワレヴ・レオネ・グキレワALT、今平紀章社会教育主事の皆様の多大なるご指導のたまものと感謝申し上げます。

最後になりますが、今回の事業にご尽力いただきました高根沢町、高根沢町教育委員会、高根沢町国際交流協会、阿久津中学校、北高根沢中学校をはじめ関係者の方々に心から感謝申し上げます。そして、快くお迎えいただきましたフィジー共和国、ナンディ市当局、バプロビンシャルフリーバード学校の皆様、本当にありがとうございました。



「Bula！から始まるフィジー共和国」

平成 27 年度高根沢町中学生海外派遣団 団長 戸井田 和明
(高根沢町教育委員会事務局生涯学習課長)

平成 27 年度高根沢町中学生海外派遣事業実施にあたり派遣団員の団長として同行し研修が無事終了いたしましたので報告と御礼を申し上げます。

平成 28 年 1 月 17 日(日)から 1 月 22 日(金)までの 4 泊 6 日の研修期間、中学生 14 名引率者 5 名の計 19 名でフィジー共和国での海外研修を実施しました。

1 月 17 日に日本を旅立ち韓国仁川空港を經由しフィジー共和国ナンディ空港へ向かいました。高根沢町を出発してからナンディ空港に着くまで約 1 日がかかりで、フィジー共和国に降り立ちました。真冬の日本から真夏のフィジーに着いたときは、真夏の太陽、青い空、澄みきった空気に迎えられ、中学生たちは、長旅の疲れも見せず心躍る気持ちであったと思います。また、空港についた瞬間から“Bula！（ブラ）Bula(ブラ)！”（こんにちは）と会う人すべての人が声をかけてくれるフレンドリーさに初めは、戸惑をみせていましたが慣れるにつれて、こちらから声が出るようになりました。

この度の海外派遣事業は、訪問国の人々と交流しながらその国の文化や風習・伝統などを体験し、自国の文化等との比較をしながら双方の良さを感じ、今後の生活に生かしていこうとする意欲を高め実践力を養うことを目的として実施しました。研修内容としては、マングローブの植林体験・サンゴ礁の苗の定植体験などの環境学習と現地村人や中等学校の生徒との交流など充実した内容だったと思います。

中学生たちは、それぞれ目的をもって研修に参加しており意欲的に活動していました。活動の中から文化の違いや日本とフィジー共和国のそれぞれの良いところを肌で感じる事ができたと思っています。また、マナ島では、サンゴ礁や海ガメの保護活動に従事している人が日本人であったことには、驚いたことでしょう。あの美しい自然にほれ込み 10 数年保護活動に関わってきて、フィジーの海のことならこの人に聞けば何でも分かるということでした。遠い南の島で志を持って活動している日本人の姿を見ることで、子どもたちのこころの中に何か感じる場所があったのではないかと思います。

参加された中学生たちには、この研修が将来の目標を見つけられる契機となれば幸いですし、今後も意欲的な学生生活を送ってくれることを期待します。

最後に、子どもたちを参加させてくれた保護者の皆さま、実行委員の皆様並びに関係各位に深く感謝申し上げます。

平成 27 年度 高根沢町中学生海外派遣事業
フィジー共和国派遣団員及び引率者

[団 員]

No.	学 校	名 前	性 別	学 級
1	阿久津中学校	あお き たか のぶ 青 木 宝 伸	男	2年1組
2		いし おろし りん 石 下 凜	女	2年1組
3		うす い り さ 薄 井 里 紗	女	2年2組
4		かね こ ま ゆ 金 子 真 優	女	2年4組
5		しの はら くる み 篠 原 来 海	女	2年4組
6		せき ね す もも 関 根 朱 桃	女	2年3組
7		そ が りん か 曾 我 梨 花	女	2年1組
8		たか はし たく み 高 橋 拓 巳	男	2年1組
9		ね ぎし けん しょう 根 岸 健 尚	男	2年1組
10	北高根沢中学校	おのぐち あか ね 小野口 朱 音	女	2年2組
11		さい とう みさ お 斎 藤 みさ 緒	女	2年2組
12		さ さ き よもぎ 佐々木 よもぎ	女	2年2組
13		とち むら こう めい 栃 村 孔 明	男	2年1組
14	宇都宮大学教育学部附属中学校	こし つか たく み 腰 塚 拓 己	男	2年4組

[引率者]

No.	名 前	性別	役 職	備 考
1	戸井田 和 明	男	団 長	生涯学習課長
2	栗 田 知 之	男	生徒指導	阿久津中学校教諭
3	林 康 子	女	生徒指導	北高根沢中学校養護教諭
4	カラワレヴ・レオネ・グキレワ	男	生徒指導	高根沢町ALT
5	今 平 紀 章	男	庶 務	生涯学習課社会教育主事



6日間の

足跡



1月17日(日) 晴れ

8:00	出発式
8:10	町民広場出発
11:10	成田空港到着
13:55	成田空港出発
16:35	経由地：韓国 仁川空港到着
19:55	韓国 仁川空港出発



出発式:寒い朝でした。ちょっと緊張気味。



成田空港：元気に、いってきまーす！！



仁川空港：店のおつりはウォンでした。



機内：長いフライト。何しようかな～。



機内食：何種類かの食べ物を選びました。みんなのお気に入りかは？

1月18日（月） 晴れ

- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 8:45 | フィジー ナンディ空港に到着 |
| 10:10 | ナンディ空港出発 |
| 10:30 | ビセイセイ村訪問 |
| 11:15 | ガーデン・オブ・ザ・スリーピング・ジャイアント
（蘭園）見学 |
| 12:00 | ナンディ市内のレストランで昼食 |
| 13:20 | ショッピング「スル」を購入 |
| 13:45 | ナンディ市場見学 |
| 14:30 | タノア・インターナショナルホテル到着 |
| 18:00 | ホテルで夕食 |
| 18:30 | フィジー政府関係者と交流 |
| 21:00 | 就 寝 |



ビセイセイ村：ブラ！と明るいあいさつ。



蘭園：ザ・南国という植物がたくさん！



ナンディ市場：果物や野菜がたくさん！



ホテル：入り口前で記念写真。

1月19日(火) 晴れ

5:30	起床
6:00	朝食
8:30	シンガトカ地区 コロトンゴ村到着
8:40	マングローブ植林体験
10:00	コロトンゴ村 家庭訪問
11:10	村での歓迎の儀式 村人と昼食(村の家庭料理)
12:40	コロトンゴ市場見学
13:20	オイスカ研修センター見学
16:30	タノア・インターナショナルホテル到着
18:00	ホテルで夕食
21:00	就寝



マングローブ植林：みんなで130本植林！



家庭訪問：村の子どもたちとも交流。



家庭訪問：女性は村では「スル」を巻きました。



家庭訪問：日本の「扇子」をプレゼント！

1月20日（水） 晴れ

6:30	起床
7:00	朝食
9:00	デナラウマリーナ港から高速艇でマナ島へ出発
10:20	マナ島到着
10:30	環境保全活動の研修（珊瑚・海亀）
12:25	ビーチ近くのレストランで昼食
13:30	珊瑚の保全活動、ビーチで遊泳
16:45	マナ島出発
18:10	デナラウマリーナ港到着
18:40	タノア・インターナショナルホテル到着
19:30	ホテルで夕食
21:00	就寝



港：わくわくドキドキ、マナ島へ出発！



高速艇：風が気持ちいい展望デッキ。



環境保全活動：珊瑚の保全活動を体験。



ビーチ：魚と一緒に泳ぎました！！

1月21日（木） 晴れ

7:30	起床
8:00	朝食
9:45	バプロビンシャル フリーボード学校到着
10:15	歓迎の儀式
11:00	昼食作り（おにぎり・みそ汁）
13:10	バプロビンシャル フリーボード学校の学生と 交流昼食
14:10	授業見学
15:15	タノア・インターナショナルホテル到着
16:10	ナンディ市内でショッピング
18:00	ナンディ市内の中華レストランで夕食
19:30	タノア・インターナショナルホテル到着
21:00	就寝



昼食作り：みそ汁の具材を市場で購入。



昼食作り：にぎにぎ、おにぎり作り！



交流昼食：伝統のロボ料理もいただきました。



交流昼食：食後、折り紙を一緒に折りました。

1月22日（金） 晴れ

5:30	起床
6:00	朝食
7:30	ナンディ空港到着
9:55	ナンディ空港出発
17:40	経由地：韓国 仁川空港到着
19:30	韓国 仁川空港出発
21:20	成田空港到着
22:10	成田空港出発
0:35	町民広場到着
0:40	解散



ナンディ空港：フィジーとのお別れ。



機内：こんなに移動した空の旅！



機内：帰りもいろいろ選べた機内食！

研修の報告



「研修の感想」

青木 宝伸



今回の研修にあたって、僕は三つの研修課題を作りました。一つ目は、フィジーの文化や気候、特長などを学ぶことです。二つ目は、英語とフィジー語を使い、語学力を高めることです。そして三つ目は、フィジータイムを体験し、それがフィジーの人々の心をどう左右させているのかを調べることです。この三つの課題を意識して、研修に挑みました。

フィジーは南半球にあるので、季節は夏となります。毎日30度を越す猛暑です。しかしフィジーはあまり四季がはっきりしていなくて、一番寒い八月でも最低気温が19度もあります。研修の一日目は、ナンディ市の観光から始まりました。ナンディ市はフィジーで二番目に大きい都市です。

まずナンディ郊外にある村に訪れました。そこは、一軒家が10～15ほど集まった小さな集落みたいな所です。村に入ると、子どもが「ブラ（こんにちは）」と挨拶をしてくれました。フィジーは挨拶がとても定着している国だということがわかりました。次に、蘭園に行きました。蘭園ではフィジー独特の花や植物が見られました。



バスに乗っているとき、道路に信号機が無いことに気づきました。市の中心部にも信号機が一つも無く、フィジーは信号機が必要なほどの車社会ではないと思いました。

二日目は、マングローブの植林体験を行いました。浜辺に穴を開け、30cmのマングローブの苗を植えました。3mほどになるのに12年もかかると知り、びっくりしました。



三日目は、マナ島に行きました。マナ島は一年中ほとんど雨が降らない所です。マナ島の人々はとてもものんびりしていて、時の流れを忘れそうになりました。フィジータイムはフィジーの人々の心を大らかにしていると思いました。

今回の研修で学んだことは皆に伝えていき、フィジーのさらなる発展を願って行きたいです。



「フィジーで学んだこと」

石下 凜

私には、今回の海外派遣事業で目標にしていたことが2つありました。一つ目は、日本とは違う生活や文化を学ぶことです。フィジーの衣類などは、スルという薄い布を腰の位置に巻いて生活します。スルには、様々な模様や色がたくさんありました。食は主に、手で食べる習慣でした。パンケーキのようなものはフワフワでとてもおいしかったです。住まいは、日本とは違い、高床式の住宅でした。水害に備えてわざと床を高くするということでした。地面と高い床の間にブランコがあり、こんな所も工夫するのかと驚きました。また衣類に関して、現地では、女子はワンピースを制服とする学校がありました。そして私たちが訪問した中等学校は、スルを制服として巻いていました。あまり見たことのない紫色の制服もあり、現地校らしいなと思いました。



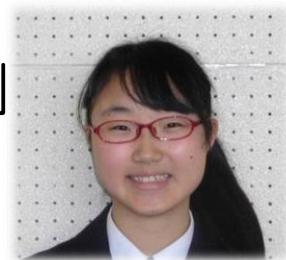
二つ目の目標は、フィジーの自然などを学ぶことです。フィジーは南国というイメージがありましたが、実際に見て、木々の多さ緑の多さに驚きました。マングローブ植林体験をしてみて、こうして緑が増えていくんだと実感しました。マングローブは約15年ほどで育つので、私たちが植えたマングローブが、15年後も太陽の下でのびのびと育ってくれていたらうれしいです。マングローブには海面上昇を防ぐ効果もあると学びました。



フィジーでの一週間は楽しくて、多くのことを学ぶことができました。マングローブの植林やサンゴの養殖など、日本ではあまり行う機会がなく、どれも初めての体験で不安もありましたが、とても楽しく、貴重な体験ができました。また、本物の英語を学ぶことができたのも本当によかったです。この研修の経験を知識として頭に入れ、フィジーで学んだ英語を普段の生活に取り入れて、英語を得意にしようと思います。

「フィジーで学び、思ったこと」

薄井 里紗



私は今回の研修の目的が2つありました。それは、日本との文化の違いを見つけることと、英語で話すことに挑戦することです。私はこのことを頭に入れながら活動しました。

現地では、村に行ったり家を訪問させてもらったりしました。私はその中で、日本とフィジーの違いを見つけました。

一つ目は、信号機や横断歩道がないことです。横断歩道は二～三個見つけたのですが、信号機はほぼありませんでした。そのため、日本よりは移動が速いですが、私にはとても危ないなと思いました。事故が起きないためにも、信号機はあってほしいです。

二つ目は、ホテルの水道水を沸かさないと飲めないことです。フィジーに行くととても驚きました。水道水を沸かさないと飲める日本は凄く便利だと思いました。

今回の活動で感動したことが二つあります。まず、マングローブの植林体験です。マングローブは環境にもよく、地球温暖化による海面上昇を防ぎ、酸素まで出してくれるそうです。とても素晴らしいと思いました。日本でも、沖縄でマングローブの植林活動を行っており、更に全国に広めて行ってほしいと思いました。



また、海が綺麗だったことと、サンゴが海のもとになっているという事実にも感動しました。サンゴは動物ですが、酸素を出し、海を綺麗にして、地球に役立っています。私たちはそんなサンゴの枝を育て植え付ける活動に参加しました。とても良い経験でした。



それから、買い物中にお店の人と話したり、学校訪問時に学生と話したりしましたが、英語が十分に聞き取れなくて残念でした。

今後は、もっと英語を学び、海外の方とコミュニケーションをスムーズにとれるようになりたいです。また、環境を良くする活動に積極的に参加し、皆が安心して安全に暮らせる未来を作る手助けができるといいと思っています。貴重な体験をありがとうございました。



「幸せの島『フィジー』」

金子 真優

私のこの派遣での目的は、大きく分けて二つありました。現地の人と日本人の人柄を比べてくること、文化の違いを見てくることでした。

現地に行つての第一印象は、「明るい」でした。空港で歌を歌って歓迎してくれたり、ホテルではほとんどの人が挨拶をしてくれたり、まず目的の人柄の違いを感じました。首都ナンディから観光名所を回っているときに、牛などが放牧されていたことが驚きでした。ここでも文化の違いを感じました。植林体験の後の村人との交流では、ココナッツをいただいたり、ニワトリがそこにいたり、自然を大事にしていました。儀式を行ったり、お別れの歌を歌ってくれたり、のんびりした時間でした。オイスカで環境レクチャーをしたり、マナ島でサンゴや海ガメのことを楽しく学んだりしました。マナ島の人たちがどれだけ大切にしているか分かりました。中等学校では、ブタの頭を焼いて私たちを歓迎してくれて、少し驚きました。合同ランチではタロイモやほうれん草みたいな物、パイナップルが出ました。しびれるものがあったりして、日本食との違いを感じました。



私はこの派遣でフィジーののんびりさと幸せさを感じました。行く先のほとんどで歌を歌ってくれて、幸せでした。でも、真夏であることもあり、紫外線が日本よりずっと強く、刺さるような日差しでした。とにかく、フィジーが幸せということが一番多く感じました。



中学生の間にこんな貴重な体験ができたことを生かして、みんなにフィジーの良さや文化を伝えていきたいです。そして、私の「通訳家」という夢に向かって、体験を生かし少しずつ今後の生活に役立てていきたいです。そして、「通訳家」という夢が叶ったら、更にフィジーの事を多くの人に伝えたいです。

「異国の地での体験」

篠原 来海



私は今回、派遣事業に参加させていただくにあたって、フィジーの人々のくらしの様子を学ぶこと、将来の夢のきっかけをつかむこと、の二つの目的をもって参加しました。

まず私たちがフィジーに到着すると、現地の人たちが音楽で歓迎してくれました。また、誰にでも挨拶を交わすというフィジーの温かさを感じました。日本は科学に頼りすぎてしまい、日本人の人柄の良さも年々薄れてきてしまっているように思うので、学ぶべきだと思います。

町を歩いてみると、ほとんどがTシャツに「スル」という布を腰に巻くというスタイルで、女性にはカラフルなワンピースを着ている人も多かったです。ただ、足元を見ると裸足の人も多くて驚きました。

私たちはフィジーの食生活を知るため、マーケットに行きました。マーケットに入った途端、フルーツの甘い香りが漂ってきました。一般的な野菜から果実、南国ならではの物まで、品揃えが豊富でした。1FD（約60円）で売っているものもあり、物価の違いも感じられました。日本には何件もあるスーパーマーケットでも、市街地に1、2件ある程度でした。



また、村に訪問したときには「カバの儀式」という伝統にも触れました。更に、ココナッツを採って食べたり伝統料理であるロボ料理を食べさせてもらったりしました。主食はタロイモやキャッサバのようでした。滅多にできない体験をさせていただきました。住まいのほとんどは平屋建てで、三世代同居、10～100件ごとに村を作っているようでした。壁が白く塗られているのは、赤道直下の暑さを少しでも防ぐためとみられます。



壁が白く塗られているのは、赤道直下の暑さを少しでも防ぐためとみられます。

マナ島に行く船の中で、私は「ナニちゃん」という女の子と友だちになりました。日本の文化を教えようと折り紙を一緒に折ったりしていると、そのお母さんが手作りの貝殻のネックレスをくれて、このことも思い出の一つです。

私は今回の派遣事業を通して、世界とつながる仕事をしたいと思うようになりました。また、各国の良さを見直し、ものの見方が変わったように感じます。今回、この事業に関わってくれた皆さん、ありがとうございました。



「Fiji と Japan」

関根 朱桃

私は今回の海外派遣に向けて、「積極的に何にでも取り組み、現地の人々と仲良くなる」「フィジーの文化を知る」という二つの目標を立てました。その目標を達成するために色々な活動をしてきました。

マングローブ植林体験では、一人数十本の苗を植えました。その木々は地球温暖化による海面上昇から土地を守る役割をしてくれます。また、マナ島では、サンゴやウミガメの保護についての研修を受け、フィジーでは環境保護への取り組みが進んでいることを知りました。しかし、フィジーでは「ゴミの分別」が進んでおらず、現在少しずつ分別を広めているようです。日本ではゴミの分別は当たり前なので驚きました。



コロトゴ村では、犬やニワトリが放し飼いになっていてびっくりしました。グループになって各家々を訪問しましたが、村の人々はとてもフレンドリーで、私でも分かる範囲の英語を使って話しました。そこでココナッツジュースを飲んだのですが、意外と甘くなくて、実はイカみたいでした。家の中は、日本の家と同じくらい広く、みんな1階建てでした。またフィジーの村では、誰の子とかは関係なく、近所の子どもをみんなで面倒みているらしいのです。日本では核家族化が進んでいるので、フィジーみたいに村全体が家族みたいなのはとてもいいなと思いました。



海外派遣を終えて、フィジーと日本を比べてみると、日本は食べ物などの環境も安全だけど、フィジーは開放感があり自由な国ではあるが、ハエがたくさんいたりと不便な面も多々あります。でもフィジーは誰にでも親切で明るく接してくれる人ばかりで、国の違う私にも笑顔で話しかけてくれました。海外派遣に行く前、私はフィジーという国を知らなかったが、今回私はフィジーが大好きになりました。また機会があったら、絶対に行きたいです。

「フィジーで体験した事」

曾我 梨花



私が、今回フィジーに行くときにたてた目標は二つあります。一つ目は、フィジーと日本の伝統的文化を比べてくる、二つ目は、フィジーの人々に日本の良い所や食文化を伝えてくる、です。私はこの二つを達成できたと思います。

現地には三日間いました。一日目は、マングローブ植林活動をしました。マングローブは海の近くに植えました。腰がとても痛くなりました。そのとき、フィジーの方と交流しました。高橋さんが一番交流していたと思う。また、村人との交流では村の方々が優しく接してくれたので冷静に考えながら交流ができました。

二日目は、マナ島へ行きました。マナ島では、サンゴの植え付けをしたりウミガメの話を聞いたりしました。これにより、私たちは認定証をもらいました。マナ島の海はとてもきれいで、入っていて気持ちよかったです。また入りたいです。



三日目は、フリーバード学校へ行って、フィジーの方を日本食のおにぎり（塩むすび）と味噌汁でもてなしました。おむすびを作るときは素手だったので、にぎるときすごく熱かったです。やけどしそうでした。フィジーの学生の方は、日本食をあまりおいしそうに食べていなかったのでもっと悲しかったです。また、フリーバード学校には留学している日本人の方がたくさんいたので、なんかホッとしました。



私は、やっぱり海外より日本の方がいいなと思いました。日本の便利さを改めて知りました。

今回の活動を、将来職に就くときなどに活かしていければいいなと思います。



「フィジーでの体験を通して」 高橋 拓巳

今回「チーム高根沢」の一員としてフィジー共和国に行かせていただき、光栄に思います。ぼくは出発する前に、「日本の文化や良いところをたくさん伝える」という課題と、「フィジーと日本を比較して、フィジーの良いところをたくさん見つける」という目的を持って、高根沢を出発しました。

現地に着くと、いきなりフィジーの良いところを見つけました。それは、空港に入るとすぐに何人かの方々が歌を歌って出迎えてくれたことです。皆がたちまち笑顔になりました。ホテルでもスタッフの皆さんが明るくあいさつしてくれました。とてもうれしい気持ちになりました。村にいた子どもたちも皆、活発で元気な子たちばかりでした。そこでぼくは、日本から持って行った「グミ」を子どもたちにあげると、とてもおいしいと言って全部食べられてしまいました。でも日本の良さを、現地の人にアピールできたので良かったです。



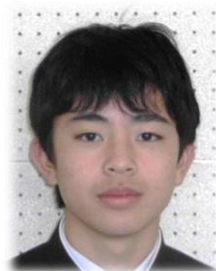
現地で感じたことは、フィジーの人は、とにかく明るい人や元気な人が多いということです。日本では、見知らぬ人に笑顔であいさつする人は、ほとんどいないでしょう。でも、フィジーの人たちは初対面でも楽しく会話をしてくれました。そして、親切にしてくれてとても助かりました。もう一つ感じたことが、日本は何に關しても恵まれているということです。特に、給食には大きな違いがありました。普通、日本の給食ではスプーンやフォークなどを使って食べますが、フィジーでは素手で食べます。よって、しっかりと手を洗って食べないと、体調を崩してしまうということを身をもって体験しました。



今回の研修を、将来の夢である「スポーツドクター」に少しでも生かしたいと思います。

「フィジー研修に参加して」

根岸 健尚



僕は今回の研修で、フィジーと日本の違いを見つけたいと思いました。具体的には、学校の様子や村の様子、食生活や生活習慣などです。学校に部活動はあるのか、給食の様子はどうなのか、いろいろ調べたかったけれど、十分な時間がなく調べられませんでした。

しかし、それ以外にいろいろと分かったことがありました。例えば、フィジーの道路には信号機がほとんどありませんでした。交差点がロータリー式になっていて信号がなくても大丈夫な作りになっていたからです。また、牛や羊が道路脇にたくさんいたことも驚きました。ゴミの分別は日本ではしっかりと分けているけれど、フィジーはゴミを分別しないところが多いことも現地の人から聞きました。海はきれいなイメージを持っていたけれど、漂流ゴミがあり、想像していたよりも汚かったのでちょっと残念でしたが、訪れた離島の海では、きれいな魚を近くで見られたのでうれしかったです。また、サンゴはとても小さく、植えるのにゴム手袋をつけて扱うので、とてもデリケートな生き物だと思いました。成長するには時間がかかるので、ずっと見守らなければいけません。自然を壊すのは簡単だけど、維持していくことは難しいと思いました。



フィジーに行ってみて、僕が住んでいる日本は、高いビルがあったり電車が走っていたり、住居がしっかりしていて発展していると思いました。スーパーも日本の方が断然広く、品数も豊富です。ただ市場では、珍しい野菜があり値段も安く、興味深かったです。フィジーの人は、日本人と違っていつも笑顔で、誰にでも挨拶してくれました。笑顔で挨拶をされると話しやすく、安心することができました。

僕はこの研修を通して、今まで知らなかった異文化に触れることができました。また、日本の良さを改めて知ることができました。今後も色々な国に行ってみたいです。そして、たくさんを知りたいです。



「フィジーの文化を学んで」 小野口 朱音

私の研修課題は、自分から積極的に英語を使ってみることに触れること、また、その外国の文化を日本の文化と比べることでした。

フィジーに行って、最初に思ったことは、「暑い」の一言でした。学校の授業で、北半球と南半球の気候の違いは学びましたが、腑に落ちていなかったため、体感でき納得できました。空港などでは、ウェルカムソングを歌ってくれる人がいたり、街や村、ホテルの人たちは、「ブラ！」と声を掛けてくれたりするので、滞在中、とても居心地が良かったです。出会った人は、「どこから来たの?」、「何歳?」、「何人で来ているの?」と笑顔で話し掛けてくれました。私も、英語で答えることができ、積極的に英語を使うことができたと思います。船の中で出会った小さな女の子とその母親とも会話が弾み、仲良くなれたことが嬉しかったです。

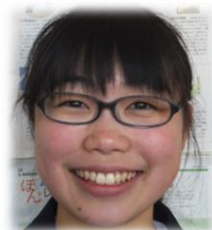
滞在中、村を訪問することがありましたが、近所の家の人同士、仲良くしていたことが印象に残っています。そして、庭にはバナナやパイナップル、ココナツの木やサトウキビなど、日本の家にはない木が多くあり、とても驚きました。採れたてのココナツジュースやレモンの葉をいれて作ったレモンティーなど、自然のものがとてもおいしく感じました。また、サンゴを増やすための活動にも参加しました。環境をよくするために取り組んでいることは世界共通なのだと感じました。しかし、フィジーでは、ゴミの分別がまだメジャーになっていないそうです。カンやビンも燃えるゴミと一緒に出していました。もっと分別することを理解できるようにしていくことが必要なのかな、と思いました。



今回、海外派遣に参加させていただいたことに感謝しています。今後はフィジーでの体験や学んだことをたくさんの人に伝えるとともに、自分の行動でも示していけるようにしたいです。

「海外派遣事業で学んだこと」

齋藤 みさ緒



私は海外派遣に参加するにあたり、二つの課題を決めました。一つ目は、フィジーの人々の生活や伝統・自然環境について学ぶこと、二つ目は、積極的にチャレンジすることです。

フィジーに到着すると、人々は、「Bula! (こんにちは)」と笑顔で迎えてくれました。不安がなくなり、安心しました。

三日目に、環境保護を行うオイスカの人たちと植林をし、村を訪問しました。村の人は、自分の家で作ったココナッツ、タロイモ、パイナップルなどを食料としていました。日常で使う物も、買った物ではなく、自然の物から自分で作って使っていた物が多かったことが印象的でした。物を大切にされていて、私も見習おうと思いました。伝統料理を食べさせていただき、意外と馴染みやすい味だったことに驚きました。村訪問では、フィジーの人に歓迎してもらえて嬉しかったし、日本とはかなり違う生活の様子を見ることができて貴重な体験をすることができました。



四日目は、リゾート地であるマナ島に行き、フィジーの自然を満喫することができました。まず、ウミガメやサンゴを守るための活動の講義を受けました。人間の行為が、それらの寿命を縮める一つの原因になっていることが分かりました。サンゴの移植をしたので、元気に成長してくれるといいです。

五日目の中等学校訪問では、現地の学生と仲良くなれました。私は、英語に自信はありませんが、分かる範囲で会話が通じたことに、とても達成感がありました。勇気を出して交流して良かったです。



海外派遣では、二つのことを学びました。一つ目は、海外では、自分の思っていることが当たり前ではなくなるということです。二つ目は、勇気を出して行動することが大切ということです。たくさんの方々のおかげで、海外派遣を充実した体験にすることができました。学んだ二つを心掛けて、これからの人生で広い視野をもって生活したいです。



「たくさん学べたフィジー研修」

佐々木 よもぎ

今回の研修で、私は主に、三つの課題を設定しました。一つ目は、現地の人と積極的に話すこと、二つ目は、日本とフィジーの植物の違いを観察すること、三つ目は、現地環境問題を知ることでした。

空港に到着すると、ウェルカムソングで迎えられ、とてもワクワクしました。私は、英語で上手には話せませんでした。フィジーの方々は一瞬に話し掛けてくださったので、徐々に前向きに話せるようになりました。事前研修で学んだフィジー語での挨拶も交わすことができ、見知らぬ人とも仲良くできて嬉しくなりました。

到着初日と二日目は、村を訪問したり、植物園を見学したりしました。村には、日本では高級なマンゴーやパパイヤ、ココナッツなどがたくさん実っていました。そして、パンの実というものがあり、蒸かしたり煮たりして食べるのだそうです。



現地では、マングローブ林の保全活動、マナ島でのサンゴ礁の養殖体験ができました。前者は、日本の「オイスカ」という団体が支援していました。フィジーは自然が豊かで、とても美しい国ですが、マングローブを燃料や木材にするために、過剰に伐採することがあり、減少し続けています。サンゴ礁も不法な漁業等により打撃を受けています。五十センチ程度のマングローブの苗木を一時間位黙々と移植しましたが、無事に大きくなった姿を、また見に行きたいと思いました。



これからは、地域の人たちとたくさん挨拶を交わせるようにしたいです。現地での気さくな挨拶がとても気持ちよかったからです。そして、日本の環境問題も少しずつ知りながら、ゴミの分別や物を大切にすることなど、身近なところから行動していきたいと思っています。またいつの日か、団員の友人と一緒にフィジーに行きたいと思っています。

「日本の文化と フィジーの文化の違い」

朽村 孔明



私の研修課題は、「他国の文化に触れることで、国際理解を深める」というものでした。国境を越えて、さまざまな事業を展開している現代において、学生の時の海外派遣の体験は、「他を理解する」にあたり、将来役に立つのではないかと、思ったからです。

フィジーでの滞在中、日本にはないフィジーの良さや日本との共通点もたくさん感じました。しかし、さまざまな体験を通して学んだことは、フィジーの良さや共通点ばかりではありません。例えば、フィジーは南国の島ならではの綺麗な自然がありますが、それとは裏腹に、海面上昇という問題点もあります。そのために、マングローブの植林をすることで陸の浸食を防いでいました。日本でも、津波や地震などの自然災害があります。この自然災害という点は、同じ太平洋に浮かぶ島としての共通点です。しかし、その災害を食い止めるのに必要な技術という点においても違いが見えてきました。



技術の違いというのは、私が体験を通して学んだ中で、一番大きな違いでした。マングローブの植林活動は、OISCAという環境の保護や保全を行う団体の活動でした。活動内容として、サンゴ礁の保全や農業研修などがあります。農業研修は、村の人々が研修を通して農業の技術を学び、普及させることが狙いだそうです。他にも、技術の普及例として、3R活動があるのでは、と考えました。フィジーには、まだ分別の習慣がなく、各種類のごみ箱を設置するなどして、分別の習慣をつける呼びかけをしているそうです。



海外派遣の体験を通して感じたことは、日本とフィジーを比較することで見えた互いの常識の違いでした。今回の活動で、自分の考える価値観や常識が、国によって異なるということです。今回学んだ、「他を理解する」というものの見方をこれからも大切にしたいです。



「交流を通して」

腰塚 拓己

気がつくと飛行機の窓からは太陽にきらめく美しい海、そしてそこに浮かぶ無数の島々が見えた。私がある時思ったことはフィジーはとても自然豊かな場所だということだった。今回、私が海外派遣事業に参加するに当たって二つの研修課題を設定した。

一つめはフィジーの環境問題についてである。いかにしてフィジーの美しい自然を保全しているのかを現地に行って調べてみたいと思った。その中で最も心に残ったことは、マナ島での、島が一体となった取り組みだ。マナ島に、主にウミガメの保護や珊瑚を増やす活動を行っているMESという団体がある。そこに日本人の方がいらっしゃり、その方からお話をうかがった。話を聞いているとフィジーでは環境への意識が低いということが分かってきた。その意識を高めるためにも地元のニーズも考えつつ、保全活動に努力しなければならない難しさを語られていた。私はここで飛行機から見えた海のことを思い出した。飛行機の窓から見えたフィジーの美しい海はフィジーの人々と一緒に日本人の手によって守られていたのだ。私が見た海はそういった努力のたまものなのだと思った。



二つめはフィジーの人々との交流である。私は現地の学校に行ったときのことが印象に残っている。私は伝統的な料理であるロボ料理をご馳走になった後、事前に用意していた折り紙で交流することが出来た。紙飛行機や鶴などを英語とジェスチャーを交えながら説明したり、遊んだりして楽しい時間を過ごすことが出来た。このとき私は積極的に話しかける事の大切さを学んだ。こちらが消極的だとやはり言いたいことを伝えることは出来ない。このとき本当の意味で私は陽気で、明るいフィジアンになれた気がした。



私は他にもフィジーに滞在した四日間でたくさんの場所に行き、たくさんの人と出会い、たくさんのことを学んだ。この貴重な体験をしっかりと友達、地域に伝えていきたい。

団員と共に



「人と出会ったとき」

阿久津中学校 教諭 栗田 知之



今回の海外派遣授業に事前研修会から参加させていただいて、私には懸念していたことがあった。それは、生徒たちの消極的な態度である。慣れない環境・メンバーで緊張していることもあるだろうが、事前研修への取り組みは消極的で、特に挨拶の声はほとんど聞こえてこない。こんな生徒たちが、現地で初めての環境・人々を前にしてどんな「意欲的な活動」を見せてくれるのか、本当に不安であった。

しかし「フィジー」という国は、そんな生徒たちを「明るい歌声」と「溢れる笑顔」、そして「ブラ（こんにちは）」という言葉で、温かく受け入れてくれた。そしてそれに反応するように、生徒たちにも「笑顔」と「元気」、そして「意欲」が見られるようになったのである。時間が経つにつれて生徒たちは、訪問した村で進んで元気に「ブラ」と声をかけたり、ホテルでのルームキーのトラブルに自らフロントで交渉をしたり、移動の船でたまたま隣に乗り合わせた外国人の子どもと折り紙を使ってコミュニケーションを図ったり、…。本当に意欲的な取り組みが見られるようになっていった。

今回生徒たちは「フィジー」という異国の文化に触れ、初めて知ったフィジーの素晴らしさや再確認された日本の素晴らしさなど、様々なことを知り、感じたと思うが、滞在中つねに交わされた「笑顔での『ブラ』」のもつ力の大きさには感じると思う。今後の生活にどんな変化が現れるかわからないが、人と出会ったときには…、そんな人になってほしい。





「フィジーでの子どもたち」

北高根沢中学校 養護教諭 林 康子

17日の寒い朝、期待に胸を膨らませ高根沢町を出発しました。フィジーまでの道のりは長く疲れた様子も伺えましたが、空港に降り立ち南国の暖かい空気に触れた生徒たちは、疲れも吹き飛び到着を喜びあっていました。

環境保護活動の一つとして体験したマングローブの植樹では、砂地に穴を掘り、苗を一本一本植えていきました。暑い中大変な作業でしたが、過去に植樹され大きく育った樹を見て、自分たちが植えた樹が大きくなる頃に再びフィジーを訪れたいという思いが湧いたようです。

この後、女性が腰に巻く「スル」を身につけて村へ行き、数人のグループで、それぞれにお宅を訪問させて頂きました。初めはとても緊張した面持ちの生徒たちも、フィジーの方々の明るい挨拶や温かい対応に心がほぐれ、会話が弾むようになりました。ココナッツを割ったり削ったりする道具の使い方を見せてもらい、味見をさせてもらったときは、とても感激した様子でした。村を去るときには、歌で送り出してくれた女性たちの姿に、たくさんの生徒が心を打たれ、目を赤くしていました。

今回のフィジー共和国訪問で、日本には体験することのできない文化の違いや人間の心の響き合いを味わうことができました。また、世界の中の日本を意識することもできたのではないかと思います。そして帰国した今、自分たちが置かれている環境に感謝する心も芽生え、一回り大きくなったように感じます。肌で感じたこの経験や感動を大きな心の財産としてこれからの学校生活に活かして行ってほしいと願っています。



「Takanezawa Junior High School Educational Tour- Fiji Islands (January 2016)」



高根沢町ALT カラワレヴ・レオネ・グキレワ

It is with great pleasure and honor to be asked to contribute to this magazine on our recent Takanezawa Junior High School Educational Tour to the Fiji Islands on the 17th -22nd January 2016.

The trip was an excellent experience for the students to experience another culture which in many aspects was totally the opposite of their daily lives in Japan.

I wish to state with respect the participation of the students and staff members in environment management and conservation work especially in replanting of mangroves and coral. Fiji is an island nation which depends mostly on its coastal fisheries for their source of protein and also as a source of income for the family. The contribution by the visiting group all the way from Japan was highly appreciated by the villages and the local community.

The students were well mannered and maintained their composure all throughout. They interacted with Fiji students and Japanese students at the Ba Provincial; Free Bird Institute and also Australian students who were on holiday at mana Island Resort.

The Educational tour was well organized and our tour guide was very thorough with the itinerary well in advance and also thorough explanations regarding Immigration and Customs procedures at all the airports. Members of the staff were very professional with their dealings with students and also with the local people and hotel staff.

In my opinion I would suggest

1. Increase the number of students so that many will benefit from the experience.
2. More emphasis to be placed on learning English conversation so that students can unlock the world by interacting with others.

On the whole I would rate the educational trip as a success and a rewarding one with many worthwhile experiences to learn from.

My sincere gratitude and thanks to the Department of Education in Takanezawa for having faith in me to accompany students and staff members to my home country, Fiji.

Should there be another call of duty in future for another educational tour to Fiji, I will be more than happy to assist.

Thank you very much. *Vinaka vakalevu.*

KARAWALEVU Leone Gukirewa

Assistant Language Teacher

Department of Education- Takanezawa





「百聞は一見にしかず」

高根沢町生涯学習課社会教育主事 今平 紀章

「フィジー共和国ってどんな国？」4月はそんな疑問を解決するために、本やインターネットなどで調べたり、関係者から話を聞いたりしました。そして、習慣・言語・食べ物・気温など、フィジーの様子がわかるにつれて、フィジーでの生活のイメージができてきました。

そして、いざフィジーへ。明るいフィジー語での挨拶・ゆったりしたフィジータイムなど、事前に知り得た情報どおり！と思いきや、時間がたつにつれて新たな気づきもうまれてきました。気温は高くても日本のようにじめじめしない、思った以上に何事もゆったり過ごし何事も楽しんでいる様子、フィジー語や英語の発音、食べ物の味、自然のかおりなど、事前に調べたこと、聞いたことだけではわかり得なかったことを、たくさん感じることができました。まさに、「百聞は一見にしかず」。団員の皆さんも同じような気持ちになった人もいたのではないのでしょうか。

さて、そんな貴重な体験の中、私は団員の姿でうれしくなったことがありました。それは、自分から進んでコミュニケーションをとろうとチャレンジしていたことです。異文化を体験する中で必要になってくるのが、コミュニケーションですが、フィジーは英語そしてフィジー語でコミュニケーションをとります。団員の皆さんは、最初はどうコミュニケーションをとってよいのかわからず苦労している姿が見られました。しかし、数日たつと、知っている単語を一生懸命に伝えたり、ジェスチャーで伝えたいことを表したりして、自分からコミュニケーションをとる姿が増えました。このチャレンジする気持ちが、「百聞は一見にしかず」の貴重な体験を、さらに何事にも代えがたい貴重な体験にすることができたと思います。

団員の皆さん、英語やフィジー語によるコミュニケーション、そして異文化体験など、フィジーの人々と心と心を通わせて得られた貴重な体験を活かして今後も活躍されることを期待しています。



平成 27 年度 高根沢町中学生海外派遣事業
フィジー共和国派遣 報告書

平成 28 年 2 月 28 日 発行
高根沢町中学生海外派遣事業実施委員会

